

越波谷の土砂変動見られず =台風12号=

ゆっくりな動きが特徴的であった台風12号。8月25日に被災を受けた越波(おっぱ)谷地区における状況確認を9月5日に実施した(写真A)。越美山系では、最大400mmを超える雨量を観測したが、この地区周辺では、200mm程度に留まり、写真Bの通り大きな土砂移動は見られなかった。



しかしながら、近畿地方整備局管内において、天然ダムを伴う土砂災害が発生するなど、台風12号は大きな爪痕を残した。このため、天然ダムを対象とし緊急調査等を行う緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)が出動。越美山系砂防事務所から職員1名、運転手1名が参加(写真C)。当事務所で培われた経験が、災害復旧の一助となることが期待される。



宇津志谷工事完了間近!

災害を無くしたいという思いはどこでも同じ。

去るH22年12月、堰堤右岸床掘中に法面崩落(写真D)が発生した。崩落現場近くにおり、敷設してあった水道管が頭の上をかすめた現場代理人の杉岡氏は、「あの時の恐怖が忘れられない。」

あれから月日は流れ、9ヶ月。宇津志(うつし)谷工事は9月末の工事完了に向け最終段階を迎えている。

○現場が力を入れたこと○

- ・水道の切り回し(断水させない!)
- ・降雨時の作業中止など、現場の危機管理
- ・新技術Tスリットの精度確保 等



チームワークの良い現場でした

杉山建設の皆さん
立川さん
監理技術者
中島さん
現場代理人
杉岡さん

お手軽! 補強土壁!!

今回は、エノマ谷第1砂防えん堤工事より、補強土壁の施工レシピをご紹介します。



まず始めに資材(写真①)と、重機(写真②)を準備しましょう。今回は、材料に軽量盛土を使用します。



次に部材を組み立てます。前面勾配に気を付けて。



軽量盛土材を巻き出します。



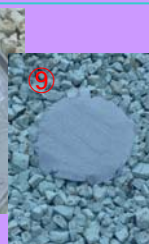
重機を使って敷き均します。端部は人力で丁寧に敷き均しましょう。敷き均し厚さは施工機械と要相談。



振動ローラーで締め固めましょう。重機が転落しないよう、誘導員を配置し、その合図に従いましょう。



最後に密度試験を行い、締め固め具合を確認しましょう。今回は、盛土部を砂で置き換え体積換算する「砂置換法」を採用。



密度試験の結果が問題なければ、はい、出来上がり。

エノマ谷では、上記の作業を繰り返し、現在補強盛土工事を進めています。